

官報

号外

令和二年四月二十九日

○第二百一回 衆議院會議録 第二十二号

令和二年四月二十九日(水曜日)

令和二年四月二十九日

正午 本会議

○本日の会議に付した案件

令和二年度一般会計補正予算(第1号)

令和二年度特別会計補正予算(特第1号)

令和二年度政府関係機関補正予算(機第1号)

地方税法等の一部を改正する法律案(内閣提出)

令和二年度特別定額給付金等に係る差押禁止等

に関する法律案(総務委員長提出)

新型コロナウイルス感染症等の影響に対応する

ための国税関係法律の臨時特例に関する法律

案(内閣提出)

午後零時二分開議

○議長(大島理森君) これより会議を開きます。

○福田達夫君 議案上程に関する緊急動議を提出いたします。

令和二年度一般会計補正予算(第1号)、令和二年度特別会計補正予算(特第1号)、令和二年度政府関係機関補正予算(機第1号)、右三案を一括議題とし、委員長の報告を求め、その審議を進められることを望みます。

○議長(大島理森君) 福田達夫君の動議に御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○議長(大島理森君) 御異議なしと認めます。

令和二年度一般会計補正予算(第1号)

令和二年度特別会計補正予算(特第1号)

令和二年度政府関係機関補正予算(機第1号)

○議長(大島理森君) 令和二年度一般会計補正予算(第1号)、令和二年度特別会計補正予算(特第1号)、令和二年度政府関係機関補正予算(機第1号)、右三案を一括して議題といたします。
委員長の報告を求めます。予算委員長棚橋泰文君。

令和二年度一般会計補正予算(第1号)及び同報告書

令和二年度特別会計補正予算(特第1号)及び同報告書

令和二年度政府関係機関補正予算(機第1号)及び同報告書

〔本号末尾に掲載〕

〔棚橋泰文君登壇〕

○棚橋泰文君 ただいま議題となりました令和二年度一般会計補正予算(第1号)外二案につきまして、予算委員会における審査の経過及び結果を御報告申し上げます。

まず、補正予算三案の概要について申し上げます。

本補正予算は、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策を実施するためのものであり、一般会計補正予算については、歳出において、感染拡大防止策と医療提供体制の整備及び治療薬の開発、雇用の維持と事業の継続、次の段階としての官民を挙げた経済活動の回復等に必要経費の追加等を行う一方、歳入においては、公債金の増額を行うこととしております。

これらの結果、令和二年度一般会計予算の総額は、歳入歳出ともに当初予算から二十五兆六千九百十四億円増加し、百二十八兆三千四百九十三億円となります。

特別会計予算については、財政投融資特別会計、労働保険特別会計など七特別会計において、所要の補正を行うこととしております。

政府関係機関予算については、沖縄振興開発金融公庫及び株式会社日本政策金融公庫において、所要の補正を行うこととしております。

なお、財政投融資計画については、緊急経済対策を踏まえ、十兆千八百七十七億円を追加しております。

この補正予算三案は、去る四月二十七日日本委員会に付託され、同日麻生財務大臣から提案理由の説明を聴取し、昨日から質疑に入り、本日、質疑を終局いたしましたところ、立憲民主・国民・社保・無所属フォーラム及び日本共産党の共同提案により、令和二年度補正予算三案につき撤回のうえ編成替えを求めるの動議が提出され、趣旨の説明がありました。

次いで、補正予算三案及び動議について討論、採決を行いました結果、動議は否決され、令和二年度補正予算三案は全会一致をもっていずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、御報告申し上げます。(拍手)

○議長(大島理森君) 三案につき討論の通告があります。順次これを許します。笹川博義君。

〔笹川博義君登壇〕

○笹川博義君 自由民主党の笹川博義です。

私は、自由民主党・無所属の会を代表し、ただいま議題となっております令和二年度一般会計補正予算(第1号)、令和二年度特別会計補正予算(特第1号)及び令和二年度政府関係機関補正予算(機第1号)、以上三案に対しまして、賛成の立場から討論を行います。(拍手)

まず、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますとともに、感染により治療を受けていらっしゃる皆様の一日も早い御回復を心よりお祈り申し上げます。そして、医療現場で奮闘する医療関係者を始めとして、福祉や治安、そして農業、商業、工業な

りを強力に支援するほか、一月の収入が半減以上した事業者に対し、返済不要で使途制限のない現金を給付する持続化給付金を創設し、法人に最大二百万円、フリーランスを含む個人事業主へ最大百万円が給付されます。

また、雇用調整助成金については、新入社員、パートやアルバイト等といった雇用保険の被保険者以外の方も対象に加えるとともに、大臣から中小企業の助成率のさらなる拡充も公表され、雇用の維持に全力を挙げることであります。

その上で、地方自治体が各地の実情に応じて適切に対応ができるよう、緊急経済対策の全ての事項に活用できる新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を創設し、一兆円を確保しております。

続いて、医療崩壊を防止し、国民の命と健康を守り抜く予算となっております。

受入れ病床の確保や軽症者の療養体制の確保、PCR検査機器や医療設備の整備、応援医師の派遣など、地方自治体が各地の実情に応じて必要な対策を機動的に打てるよう、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を創設し、一千四百九十億円を計上しております。

また、医療従事者の命と健康を守るため、マスクや消毒液、防護具等を優先確保するほか、重症患者の増加に対応するため、人工呼吸器の確保や、人工肺などを正しく扱える人材の派遣体制の整備、さらには、アビガン二百万人分の確保、治

療薬、ワクチン等の研究開発など、感染拡大防止策と医療提供体制の整備、治療薬の開発に全力を挙げる予算となっております。

最後に、刻一刻と変化する状況に対応するため、新型コロナウイルス感染症対策予備費として一・五兆円を確保し、必要な追加策を機動的に実行可能としている点も高く評価いたします。

以上、本補正予算案は、私たち国民が一致結束し、一日も早く新型コロナウイルス感染症を終息させるための緊急措置として必要不可欠であります。今、政治に強く求められていることは迅速性です。本予算案の早期成立と可及的速やかな執行を求め、私の賛成討論といたします。

ありがとうございます。(拍手)

○議長(大島理森君) 藤野保史君。

(藤野保史君登壇)

○藤野保史君 私は、日本共産党を代表して、二〇二〇年度補正予算案に賛成の討論を行います。

(拍手)

新型コロナウイルスでお亡くなりになった方々への哀悼とともに、闘病中の方々にお見舞いを申し上げます。医療従事者を始め、社会インフラを支えて奮闘されている方々に心からの敬意と感謝を申し上げます。

本補正予算案に求められているのは、新型コロナウイルスへの対応に当たって、感染爆発と医療崩壊を絶対に起こさないこと、日本に暮らす全ての人の生活と営業を守り抜くことです。

まず、感染爆発と医療崩壊を防止する上で、大きな鍵を握っているのが、PCR検査体制を抜本的に改善、拡充し、必要な人が速やかに検査を受けられる体制に転換することです。ところが、本案では、PCR検査センターを想定した予算は全く計上されていません。

新型コロナウイルスへの対応で、一病院当たり月二億円の減収という試算もあり、多くの病院が経営危機にさらされています。全国約千二百のコロナ患者受入れ病院に当てはめれば、半年で一・四兆円という巨額の負担です。ところが、本案の緊急包括支援金は千四百九十億円にすぎません。

医療用マスク、防護服なども全く不足しています。日本医師会は、医療用マスクが一月で四億から五億枚必要だと試算していますが、政府の計画は一月で四千五百万枚で、桁が一つ違いです。

ここからは、医療崩壊を絶対に起こさないという政府の決意が全く感じられません。感染リスクのもとで、精神的にも肉体的にもぎりぎりの状態で奮闘している皆さんを全力で支えることこそ、政治の最低限の責任ではありませんか。

次に、暮らしと営業を守り抜くためには、自粛と補償をセットで行うことが極めて重要です。ところが、本案にはこの基本姿勢が欠けています。収束のめどがつかないもとで、収束後のゴー・トゥー・キャンペーンに一兆七千億円もつぎ込むのではなく、まずは目の前の課題に充てるべきで

す。

緊急時に暮らしと営業を守り抜くためには、平時のやり方では不十分です。雇用調整助成金は、コロナ特例として、一日当たり八千三百三十円の上限を抜本的に引き上げた上で、事後審査を基本とするなど、迅速な手続に転換すべきです。持続化給付金の対象を大幅に拡大し、家賃やリース代など固定費を払える額に引き上げた上で、一回限りでない継続的な支給を行うべきです。地方創生臨時交付金も、全国知事会が求めているように、大幅に増額し、自由度の高い制度にすべきです。イベント自粛による損失補償や学生の皆さんへの支援も急務です。

こうした支援を行うためには、百兆円を超える当初予算にもメスを入れるべきです。韓国では、F35戦闘機などの軍事費を削り、新型コロナウイルス対策に回しました。当初予算に含まれている辺野古埋立てやイージス・アショアなどの予算は執行停止し、新型コロナウイルス対策に集中すべきです。

野党は、雇用調整助成金の改善、持続化給付金の増額、地方創生臨時交付金の増額など、予算組み替えを提案しています。家賃支援法案も共同提出いたしました。命と暮らしを守るために、これらの提案を真摯に検討することを強く求めます。国民の声に押されて政府が一律十萬円の給付に転換したもとで、一刻も早く国民のもとに届けることが強く求められていることから、本案に賛成し、討論を終わります。(拍手)